vinetur

猛暑と干ばつで異例の早さとなったローヌ渓谷の収穫開始

Inter Rhôneによると、Côte-Rôtieの収量は平年を約20%下回った一方、生産者はワインの品質に期待を示している

2026年11月18日（水）



Inter Rhône（ローヌ地方のワイン業界団体）によると、猛暑と干ばつに見舞われた2026年のローヌ渓谷では、ワイン用ブドウの収穫が異例の早さで始まり、一部の主要産地では収量が減少した。

Inter Rhôneは水曜日、冬から春にかけての降雨で土壌の水分が回復した後、夏に何度も熱波が襲い、地域全域のブドウ畑が乾燥したと発表した。春までに水分が蓄えられていたものの、ブドウの成熟は速く、生産者は収穫時期を見極めるため、区画ごとの状態を注意深く見守る必要があった。

多くのブドウ畑で収穫は例年にない早さで始まり、一部の生産者は8月中旬に作業を開始した。Inter Rhôneによると、産地ごとに状況が大きく異なったため、収穫時期の判断が重要となっ

た。生産者は各テロワールに合わせて対応し、収穫日を精密に調整することで、ワインのバランスを保とうとした。

Inter Rhôneの会長、Samuel Montgermontは、ヴィンテージの先行きは読みにくかったものの、最終的な結果には期待が持てると述べた。今季は生産者にとって試練となったが、ワインの品質には明るい兆しが見られたという。白ワインは際立ったアロマの強さを備え、赤ワインは骨格と成熟度が際立っているとした。

Inter Rhôneによると、北ローヌではDioisで8月11日に最初のブドウが収穫され、記録上最も早い収穫となった。その数日後の8月15日にはCôte-Rôtieで収穫が始まり、8月後半に降雨が訪れる前に作業が進められた。

Inter Rhôneによると、Côte-Rôtieの収量は平年を約20％下回ったものの、ブドウの品質は凝縮感があり、濃厚だった。Condrieuでは8月22日に収穫が始まり、ブドウの樹は非常に良好な状態と報告された。Hermitage AOCとCornasでも収穫は早く始まり、生産者からは好意的に受け止められた。

北部で特に大きな影響を受けた産地の一つがSaint-Pérayだった。Inter Rhôneによると、同アペラシオンはシーズン中に6回連続で熱波に見舞われた。それでも生産者は、樹齢の高いブドウの樹が極端な気象条件に耐えたと報告した。樹齢や根の深さが、長期にわたるストレスへの耐性を高めた可能性を示している。

さらに南でも猛暑と干ばつが大きな要因となったが、Inter Rhôneによると、シーズン序盤に多くの生産者が懸念していたほど状況は厳しくなく、全体としてはより均衡が取れていた。Cairanneでは雨の多い春の後、夏は非常に乾燥した。収穫は8月20日に始まり、10月初めまで続いた。

Cairanne AOCの共同会長、Laurent Brussetは、今季は意外性があり、困難で厳しいものだったが、最終的な品質は高かったと述べた。Rasteau、Lirac、Duché d’Uzèsなど、南部のほかのアペラシオンでも、収穫が早く始まり、ブドウの品質は高かったと報告された。

Costières de Nîmesでは、Inter Rhôneによると、冬から春にかけての降雨で水分が回復し、海風が夏の暑さを和らげる助けとなった。Costières de Nîmes AOCの共同会長、Michel Gassierは、同産地の白ワインは優れたバランスとフレッシュさ、豊かなアロマを示し、赤ワインには成熟度とバランスがあり、将来性も感じられると述べた。

ローヌ地方の状況は、欧州のワイン産地に広がる傾向を反映している。生育期の高温化によって収穫が早まり、アペラシオンごとの収量予測が難しくなっている。ローヌでは、生産者が高品質と評価するワインが2026年に生まれたとみられる一方、Côte-Rôtieなどでの生産量減少は、フランス有数の輸出産地から安定した供給を求めるワイン商や輸入業者、小売業者に影響する可能性がある。

高級アペラシオンでは、品質が高くても収量の減少によって供給が絞られるため、こうした圧力が特に強く表れる可能性がある。酒類業界にとって今季は、長期的な生産計画において、ブドウ畑の管理や立地の選定、猛暑や干ばつに迅速に対応する能力が一段と重要になっていることを示す新たな事例でもある。

Inter Rhôneの報告からは、悪天候にもかかわらず、地域全体で生産量が大幅に落ち込む事態は避けられたことがうかがえる。しかし、年初に水分が回復した一方で、その後の夏に強いストレスに

さらされたという対照は、多くの生産者が直面する不安定な均衡を浮き彫りにしている。適切な時期に雨が降り、土壌に十分な水分が保たれた地域では、ブドウの樹は最も暑い時期にも持ちこたえたようだ。Côte-RôtieやSaint-Pérayのように厳しい影響を受けた地域では、生産者は収穫時期を慎重に見極め、根付いた畑の耐性を生かして果実の品質を守った。

地域団体と各アペラシオンの代表者によると、今季は例年より早く収穫が始まり、畑では絶え間ない注意が求められた一方、市場で十分に評価されうるワインができた。ただし、一部産地での収量減少は、今後の供給と、気象条件の変動が激しさを増すなかで適応に必要となるコストについて、課題を投げかけている。